

昭和33年生まれ、十日町市中条出身 青山学院大学文学部卒業	昭和58年4月〜平成13年3月 栃尾市、弥彦村、十日町市、中里村の小学校で教諭として勤務	この間、平成3年4月〜6年3月 新潟県教育庁文化行政課（埋蔵文化財発掘調査担当の文化財専門員）勤務	平成13年4月〜25年3月 能生町、小千谷市、南魚沼市、津南町で教頭勤務	平成26年〜 三用小学校長 趣味 写真・囲碁
----------------------------------	---	--	---	------------------------------

**略歴**



**三用小**

須藤校長先生

三用小学校勤務が間もなく3年目を終えようとしています。校長は、赴任した日に全職員に「学校経営の方針」なるものを示さなければなりません。職員とは初対面、子どもとも保護者とも会っておらず、地域の様子も知らない中で、最も伝えたかったことは、「学校とは、教育という営みを通して、そこにかかわる子どもも教員も保護者も地域も人間として成長する場でありたい。」ということです。すなわち、学校とは地域の一員として地域貢献のできる機関でなければならないということです。3年間、校長としてこの地域に学び、考えたことを少しおしゃべ

りします。

**地域のスピリッツが若者に伝わる地域**

三用地域とのかかわりの中で最も感銘を受けたことは、9月の敬老会と明朗運動会です。特に敬老会を企画運営するのが、三用小学校同窓会であることに驚きを覚えました。なぜなら、これまでかかわってきた地域の中で、敬老会の運営は、区長会か地区振興会と決まっていたからです。どのようにして同窓会がこの会を切り盛りするよ



東地区明朗運動会 集落対抗障害物リレー

うになったのかは分かりませんが、小学校の保護者またはそれより少し若い世代の人たち(ほとんど男性)がお年寄りの送り迎えから会の司会・進行・接待などほとんどを受け持ち、前日準備から片付けまでをきちんと成しとげる姿は、私の目には新鮮に映りました。

言うまでもなく、今の同窓会の人たちも、その先輩の姿を見て育ってきています。印象としては、消防团的だとも思えます。アトラクションのトランペット鼓隊として参加する5,6年生の子ども達もそういう父親や兄貴の背中を見ています。だから、じよんのびの会やデイサービスセン

ター、特別養護老人ホームの訪問でも子ども達は、ごく自然にお年寄りと接することができます。この伝統は、ぜひ受け継いでもらいたいなあ、と祈らずにはられません。

**女性活躍社会が待たれる地域**

三用小学校には未だに女性PTA会長がいません。今の三役選考システムを続ける限り女性会長は容易には現れないんじゃないか、と思います。市内の小中学校にはときどき女性PTA会長

が会合に出席します。女性の社会進出は、ある意味では日本の国全体の課題とも言えますが、この地域はなおさらではないかと感じています。

では、この地域の女性が表に出ることをことさらに遠慮しているのかといえば、そうでもない場面もあります。先般、東地区地域づくり協議会女性部主催の東日本大震災被災地視察研修旅行に同行させていただきました。すごいパワーを感じます。じよんのびの会に出てこられる元気なお年寄りも女性ばかりです。

もしかしたら、ある一定時期(例えば男性が

働き盛りの第一線を退く時期)まで、女性は裏で男性をうまく操っているのかもしれない、などと思ってしまいます。時の内閣が「一億総活躍社会の実現」を謳っている今日、若い女性の皆さんもどんどん社会進出をするようになると、三用地域も活性化するんじゃないか、と思います。

**キャリア教育推進を課題として**

国も県もキャリア教育の推進を重要な教育施策に掲げています。キャリア教育とは「一人一人の社会的、職業的な自立に向けて、自分のふるさとへの誇りを持ち、粘り強く自分の未来を切り拓く力を身に付ける教育」です。この地に生まれて育ったアイデンティティをもちつつ、将来自分が生きる場所がどこであっても、しっかりと地に足をつけて生きていく人材育成のために、私も力を尽くしていきたいと思ひます。



**協議会ブログの紹介**

「水無みようパッション」  
The Mizunashi-Miyo Passions

検索は  
東地区地域づくり協議会ブログ  
または  
[Higashi333.exblog.jp](http://Higashi333.exblog.jp)